

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

エペソ人への手紙一章二三節

2016(28)年 週 報

1月24日

「悪魔に機会をあたえるな」

第4聖日

寒中礼拝

第3439号

聖  
言

悪魔に機会を与えないようにしなさい。 エペソ4:27

礼拝の恵み 第二二章

第十部 礼拝の効果

礼拝の意義、重要性・権威・対象・土台・力・仕方・障害・場所と論じてきたので、結論として礼拝の効果について考えて、この研究をおわりたい。

礼拝の結果は偉大であって、神、信者、集会、未信者におよぶ。

第二節 信者は祝福されるであろう。

礼拝する信者は喜びにあふれている信者である。喜びは服従から来るからである。キリストは「もしこれらのことがわかっていて、それを行うなら、あなたがたはさいわいである」と言われた。礼拝は信者に神をよりよく知ることができるようにし、神をもっと多く尊敬することができるようになる。そして、この知識によって神は「大きな喜び」(詩篇四三ノ四)となる。礼拝をもとめたもう神の要求を満たす人は、喜びを求める自分の要求を持たされるであろう。その愛子の人格において御自分を啓示したもうた神を黙想することによって得られる喜びほども、とうとい喜びはない。信者は結果として自然に生じる喜びを得ようとしてそのために神を礼拝するのではない。けれども、この「主にある喜び」が礼拝の生じる沢山の副産物の一つであるという事実には、変わりはない。こうして、神の心を喜ばすために信者から神にのぼる礼拝への報いとして、神から信者に祝福がくだり、それが信者の心をよるこばすであろう。「私を尊ぶ者をわたしは尊ぶ」(一サム二ノ三〇)(Apギブス礼拝より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一六年一月一七日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「新しい天と新しい地」 (阪神淡路大震災二一年追悼礼拝)

「しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれさり、地と地のいろいろなわざは焼け尽くされます。そのようにして、神の日のくるのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。その日が来れば、そのために、天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまいます。しかし、私たちは、神の約束に従って、正義の住む新しい天と新しい地を待ち望んでいます。」(ロペテロ三ノ一〇〜一二)

**祈り** 本日、六四三六名の尊い命を奪われた阪神・淡路より二二年を迎え、そして地震、津波、行方不明、関連死をあわせると二万数千名の犠牲者のでた東日本大震災より三月十一日で五年を迎えようとしています。一昨日も軽井沢の碓氷峠でバスが転落してスキーに向かう大学生たちと乗務員がなくなりました。世界に目をむけると毎日、各地でイスラム過激組織のテロで多くの方が犠牲になられています。こうしておけばとの後悔は先にたちません。あるいは天を憎んでも心の痛みはとれません。こうした悲しい現実を認めつつ、私たちは追悼礼拝をささげようとしています。本日の礼拝の中にはノンクリスチャンの方もおられます。しかし、クリスチャンであれ、ノンクリスチャンであつても、命の根源であるお方によって造られたと神様は言われました。そのお方を信じさせてください。そのお方は私たちが我が子を犠牲にしたほど愛しておられ、信じる者をわが子として迎え入れてくださいます。そしてわが子の苦しみをわがごときとして苦しんでくださいます。慈愛深い親のごとく慰めと希望を注いで、私たち神の子に喜びと人を愛する心を与えてください。

第一に新しい天地は祈りを通して与えられます。主の祈りのなかに天にまします我らの父よ。御国を来たらせたまえ。オバマは昨年アメリカは世界の警察でないと発表したとたん、世界に混乱が生るようになりまし。人が作る平和は力の平和です。神の作るは平和は愛の平和です。赦し、忍ぶ、期待する中に平和があります。新しい世界はそのようなものです。

第二に新しい世界は揺れ動くことはありません。世界はビッグバンで出来たといわれます。聖書は最初の世界は水で作られましたが大洪水で滅んでしまいました。故に今の世界は大洪水の後の世界です。水で滅んだ世界は再び人間の罪の為に火で滅びるとあります。しかし新しい世界は揺れ動くことなく、滅びることはありません。

第三は新しい世界は義の住む世界です。義とは羊の下に我と書きます。羊の犠牲の下に我がいることが義なのです。そうです、イエス様がいけにえの小羊となり犠牲となってください。このことにより私は神の前に義となるのです。新しい天と地の民はイエス様の義をいただいた人です。